

マザー・テレサ 列聖

「わたしは毎朝、祭壇の上から小さなパンのかけらの主をいただいています。もう一つは、町の巷の中でいただいています。先日、町を歩いているとドブに誰かが落ちていた。引き揚げてみるとおばあちゃん、体はねずみにかじられて、ウジがわいていた。意識がなかった。それで体をきれいに拭いてあげた。そうしたら、おばあちゃんがパッと目を開いて、『マザーありがとう。(Mother, thank you.)』といって息を引き取りました。その顔は、それはそれはきれいでした。(It was so beautiful.)」

そして、続けてマザーいわく、「あのおばあちゃんの体は、わたしにとってご聖体でした。なぜかと言うと私にとっては、イエス様の言葉はすべて神祕。『私は飢えた人、凍えた人の中にいる』とおっしゃったように、あのおばあちゃんの中に主がいらっしゃった。そのおばあちゃんを天に見送った時に、私の中に主が来てくださったのです。」(粕谷甲一神父、講演記録より抜粋)

この「二つのご聖体」のエピソードは、カトリック信者が大切にしている聖体拝領、つまり、キリストの身体となった小さなパン(聖体)をいただくことと、誰にもかえり見られず死にゆく人の最後を看取り、その人を腕に抱くことが、イエスを抱き、イエスをいただくことであるということを重ね合わせたものです。教皇フランシスコが「わたしは自然と『マザー・テレサ』と呼び続ける」と最大の賛辞をこめておっしゃったこの限りない優しさと憐みのこころは、わたしたちが「主よ、憐みたまえ」と神に祈る時に、同時に、神が「あなた方も同じように互いに優しくあれ」と諭してくれたことの実践であると言えるでしょう。



九月四日、マザー・テレサが、教皇フランシスコによって列聖されました。

列聖されるということは、カトリック教会がその人を「聖人」と認めるということを意味します。これまでの慣習に従えば、この時からマザー・テレサは「聖テレサ」とか「聖コルカタのテレサ」とか呼ばれるようになるのです。

しかし、列聖式ミサの中、サンピエトロ広場を埋め尽くした十二万人の観衆の前で、教皇フランシスコは、みずから「聖人」として宣言したマザー・テレサについて「彼女の聖性はわたしたちにとつても身近で、この上なく優しく、豊かなので、わたしたちは自然と彼女を『マザー・テレサ』と呼び続けます」と語りました。

このようにローマ教皇が語ったマザー・テレサの聖性に関して、ひとつのエピソードを紹介します。このエピソードは一九七六年シंगाポールで世界宗教者会議が開かれたときにマザーによって語られたものです。

清泉カトリック センターだより

第 21 号
平成 28 年 9 月 19 日
【編集・発行
カトリックセンター】

今月の聖書

はつきり言っておく。私の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、私にしてくれたことなのである。

■マタイによる福音書 第二十五章 四十一節



人々で埋まった列聖式のサンピエトロ広場



マザー・テレサに関する映画

マザー・テレサの伝記的な映画やドキュメンタリー(記録映画)が作られています。

<映画>

- 『マザー・テレサ：神の愛した聖女』
- 『マザー・テレサ』

<ドキュメンタリー>

- 『マザー・テレサと生きる』 (2009年/日本)
- 『マザー・テレサとその世界』 (1979年/日本)
- 『マザー・テレサの祈り 生命(いのち)それは愛』 (1981年/日本)
- 『母なることの由来 -デジタル復刻版-』 (1986年/アメリカ)
- 『母なるひとの言葉』 (2004年/アメリカ)
- 『マザー・テレサの遺言』 (1996年/ドイツ)